公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2018年
5月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・1
・特集・会員を増やすための探鳥会⑦
◆遠江からの情報・・・・・・・・・・・・・10
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・11
（2018年３月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・13
・2018年度からの「初心者向けバードウォッチング」について
・2017年度「探鳥会リーダーズフォーラム」報告書（概要版）
・今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は宮城県で開催！
・「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・19
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・20
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・20

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会⑦）

11月から、全国24支部と開催を続けてきました2017年度の「会員を増やすための探鳥会」が３月31日で終了しました。

今月号では、２月12日、３月４日、３月31日に開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告します。

※全体で８回を開催した栃木の探鳥会の掲載は、次号以降に持ち越しさせていただきます。

表1.

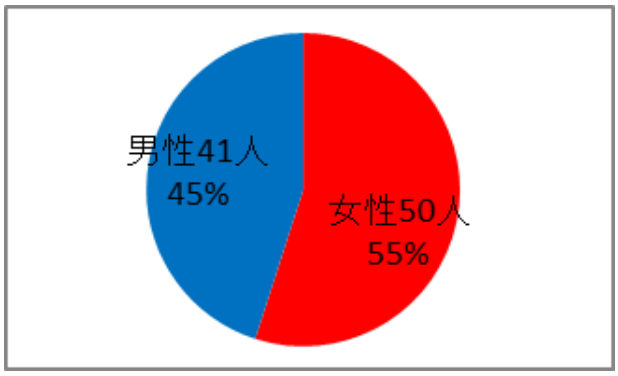
実施日	支部	実施場所	
2018/2/12（月・振替休日）	京都支部	京都市	京都御苑
2018/3/4（日）	和歌山県支部	紀の川市	大池遊園
2018/3/31（土）	神奈川県支部	横浜市	境川遊水地

2017年度は、計46回開催し、全体で1,935名の方にご参加いただき、そのうち会員でない方は1,485名（全参加者の77%）、お試し入会した方は217名（会員ではない方の15%）でした。結果一覧を８、９ページに掲載しています。

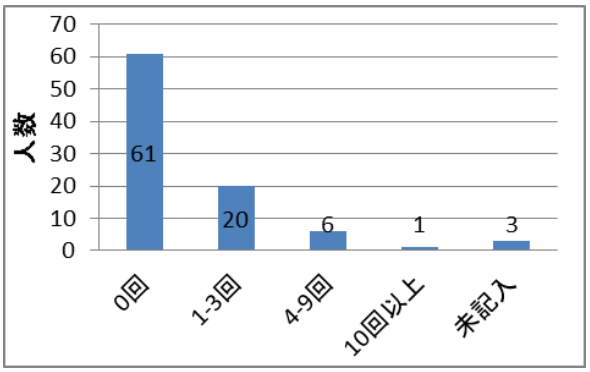
初めてのバードウォッチング@京都御苑（京都支部）

【日程】2018 年 2 月 12 日（月・振替休日）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】京都御苑（京都府京都市）
【天候】晴れ
【参加者】91 名（うち一般参加者 87 名）
【リーダー】10 名、財団職員 1 名
【お試し入会】6 名（一般参加者のうち約 6%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP ／Facebook／Twitter／ブログ、支部 HP／Facebook／ブログ
HP「Kyotopi」（2/7）
＜メール＞一斉メール送信
（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）
＜新聞＞毎日新聞（2/3）、京都新聞（2/7）

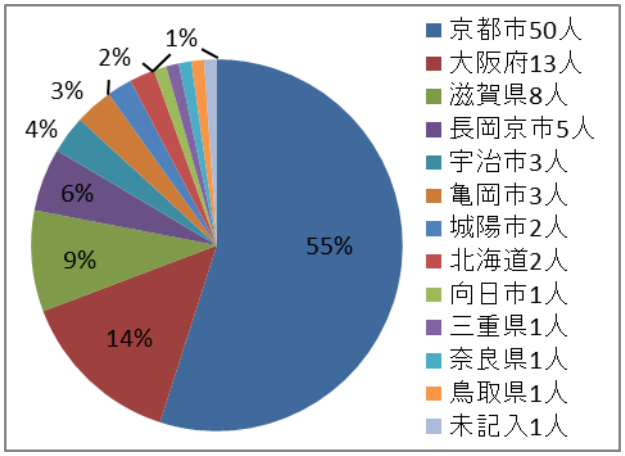
【性別】



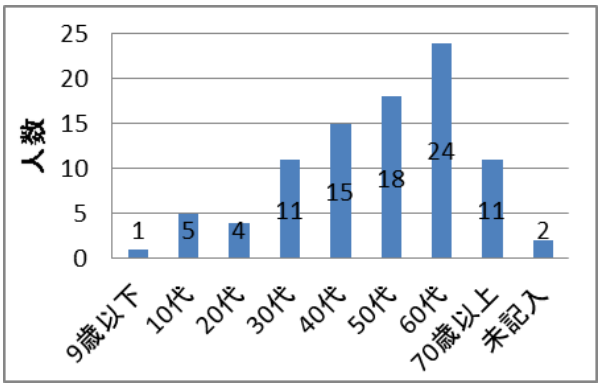
【バードウォッチングの経験回数】



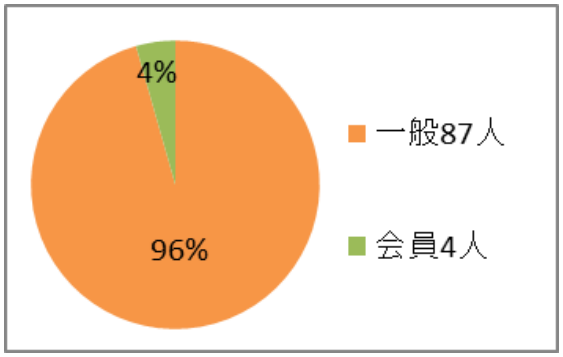
【お住まい】



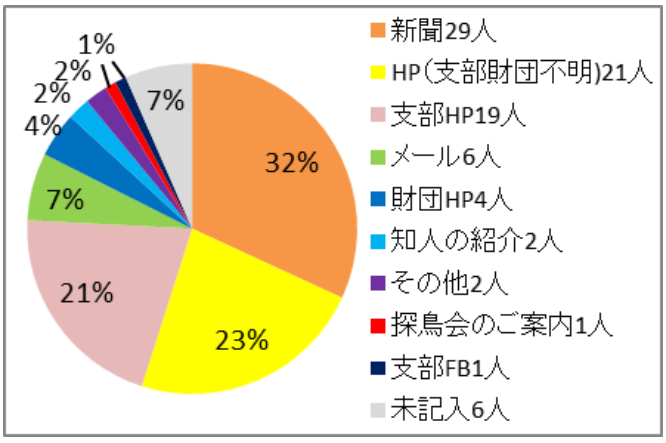
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

京都支部が１０月から５月にかけて毎月定例探鳥会を行っている京都御苑は、京都市街の中に広大な緑地を抱える一角で、大きな通りに四方を囲まれ公共交通機関も充実しています。知名度も抜群のこの京都御苑で今回初めて「会員を増やすための探鳥会」を実施するにあたり、多数の参加者があることを予想して、京都支部ではスタッフや配布資料の確保、受付やグループ分けなどの進行計画などの準備をして臨んでおられました。

支部・財団発信のインターネット媒体での広報に加えて、新聞２紙や京都情報サイトにも募集記事が掲載され、当日は予想を大きく上回る 91 名の参加者がありました。定例探鳥会で培ったフィールド知識を駆使して３時間たっぷりと御苑の野鳥を楽しむ探鳥会になりました。

■探鳥会の様子

京都御苑・乾（いぬい）御門を入ってすぐのゆったりと広い園路脇に、緑のフラッグとスコープが並べられ、遠くからでも受付場所がすぐにわかります。次々と参加者が集まってきて、あっという間に受付の待ち列が何本も出来上がってしまいました。想定していた７０名を大幅に上回る参加者で、用意していた配布資料や受付名簿が不足し、スタッフが慌ててコピーを取りに走ること数回。受付に時間がかかっている間、受付済みの参加者が手持ち無沙汰にならないように一足先に双眼鏡の使い方の説明を始めるなど、臨機応変に対応がとられました。定刻より 10 分遅れでリーダーの挨拶から探鳥会がスタートです。スタッフ数も十分とは言えなくなってしまいましたが、参加者を「子ども連れの家族グループ」「双眼鏡の使い方の説明済みのグループ」「双眼鏡説明がまだ済んでいないグループ」の３つに分け、それぞれに合った進行、ルートで探鳥会が進められることになりました。

▲参加者殺到！

御苑内の園路は広く、30 人程度の大きなグループでの移動でも他の利用者の通行の妨げになることがなく、ゆっくりと観察できます。見通しの良い園地ではヒヨドリやシジュウカラ、コゲラなど鳴き声や音で見つけやすい鳥や、ビンズイやアトリ、トラツグミなど、地面で行動する様を観察しやすい鳥が数多く出現し、双眼鏡やスコープの数の不足を補うようにそれぞれの観察ポイントでしっかり時間を取りました。参加者は交代でスコープを覗いたり、リーダーの説明に聞き入ったり、熱心に観察していました。

大所帯でのゆっくりとした移動となったため、当初予定していたルートを約 3 分の 1 残した地点で探鳥会を終了しました。各グループとも、カワセミやルリビタキ、トラツグミといったハイライトにも恵まれ、とても充実した探鳥会になったようです。

■アクシデントへの対応

今回、探鳥会開催中に参加者が段差につまずいて転倒する事故が発生しました。段差等の危険が予想される場所ではその都度リーダーから注意喚起がありましたが、多数の参加者があり声が行き届かなかったかもしれません。今回は随行していた財団スタッフが対応し、怪我の状態の確認後、ご連絡先を伺い探鳥会保険対応のご案内をいたしました。

■まとめ

100 人規模の探鳥会は京都支部でも数例しかないとのこと。受付・進行・お試し会員のアナウンスまで、様々な課題が見つかった探鳥会になりました。

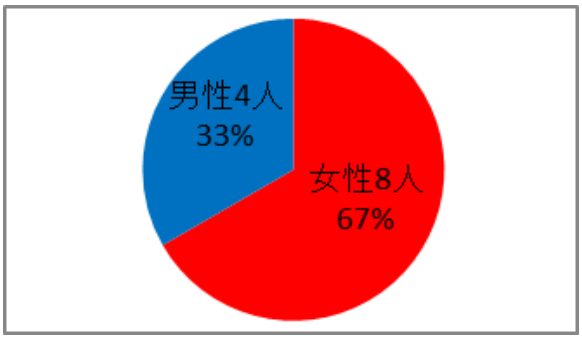
探鳥会中の事故は想定していても、実際に経験された支部・リーダーの方は限られていると思います。多数の参加者を少ない人数のスタッフで案内する場合は事故のリスクがぐっと高くなることを念頭に置いて、今一度、危機管理について支部の中で共有して頂くことをお勧めいたします。

（普及室／浅野綾子）

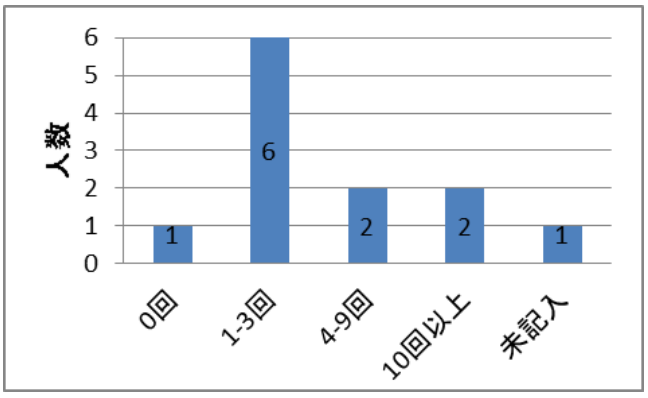
和歌山電鐵・貴志川線に乗ってバードウォッチング（和歌山県支部）

【日程】2018 年３月４日（日）９時 00 分～11 時 30 分
【場所】大池遊園駅周辺（和歌山県紀の川市）
【天候】晴れ
【参加者】12 名（うち一般参加者７名）
【リーダー】９名、財団職員１名
【お試し入会】５名（一般参加者のうち約 71%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ
　＜メール＞一斉メール送信
　　（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）

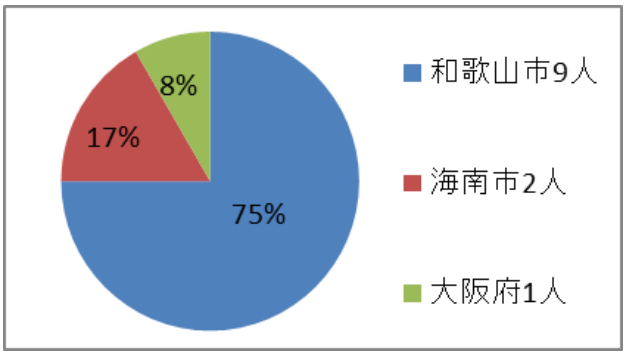
【性別】



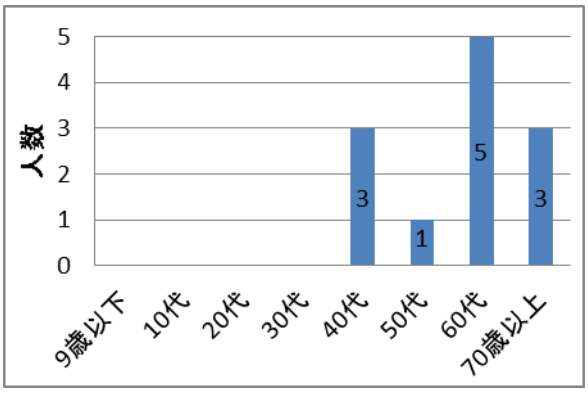
【バードウォッチングの経験回数】



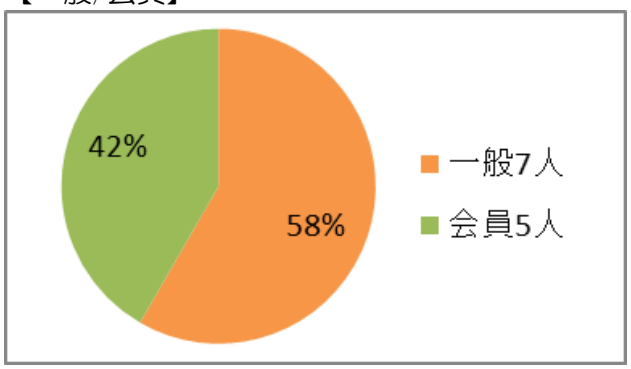
【お住まい】



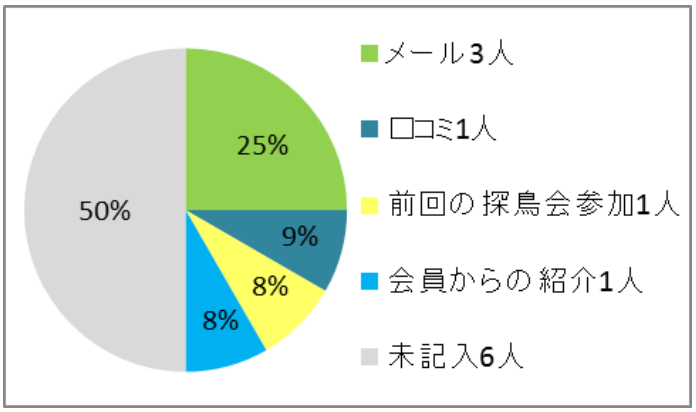
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

昨年度に引き続き、和歌山電鉄・貴志川線沿線の探鳥地での「会員を増やすための探鳥会」です。前回の開催地の平池緑地公園は水辺の環境が中心でしたが、今回の大池遊園周辺は水辺、田んぼ、山林がバランスよく入った、年１回の定例探鳥会の開催場所でもあります。

民家のすぐそばの道や田畑などの私有地がコースの中に入っており、事前・当日に地権者や地域の方へ挨拶をするなどの配慮も欠かさずに行っているそうです。出現する鳥が少ない場合を想定して、植物やお地蔵さんや祠などの地域の歴史や民俗に詳しいリーダーを加えるなど、鳥に限らない内容にする工夫・準備をして探鳥会に臨まれました。

当日は当会からのご案内のメールをご覧になった方を中心に７名の一般参加者が参加されて、同時開催の定例探鳥会参加の会員とともに春の里山のバードウォッチングを楽しみました。

■探鳥会の様子

穏やかに晴れた気持ちのいい日和です。貴志川線「大池遊園駅」では電車から降りた参加者がリーダーの出迎えを受けています。今回は事前申し込み制を採用され、参加者のお名前を確認して自動車で来られる方の集合場所まで誘導します。リーダー達のにこやかな応対で参加者の緊張が和らいでいくようです。

挨拶とコース説明のあと双眼鏡の使い方の練習をはじめます。初めて双眼鏡を手にする参加者も丁寧な説明を聞きながらあちこちにレンズを向けて双眼鏡に馴染んでいきます。準備を整えて定例観察会参加の会員と一緒に歩きはじめました。

▲早速、双眼鏡の使い方の練習

まずはため池に浮かぶカモ類の観察でウォーミングアップです。リーダーの説明を聞きながら実際に双眼鏡でカモにピントを合わせます。スコープを覗いた参加者からは
「すごい、こんなにはっきり見えるんだ！」
と感嘆の声が上がります。

山あいの樹林地を目指して民家の間の小道を通ります。大切にお祀りしている小さな祠やお社、よく手入れされた竹林などを拝見しながら地元の方の暮らしぶりや、その土地の歴史にまで話題が及びました。
「私たちは自然を楽しむために地元の方の暮らしの場にお邪魔させてもらっているんですよ。」
とのリーダーの言葉に、参加者も真剣に肯いています。

後半は樹林内の小鳥や植物を観察しながら歩きます。ベニマシコやシジュウカラの鳴き声に耳を傾けたり、ハシブトガラスとハシボソガラスの羽の見た目が微妙に違うことなど、興味深いリーダーの話を聞きながらの観察であっという間に時間が過ぎました。

予定行程の半分が過ぎた 10 時半ごろ、間もなく猟友会による猪猟が始まり危険なので下山された方がいいですよ、と地元の方が教えに来てくださいました。予定を少し早めて集合場所に戻り、鳥合わせ、支部活動の紹介、お試し入会のご案内をして、とても充実した探鳥会を締めくくりました。

■まとめ

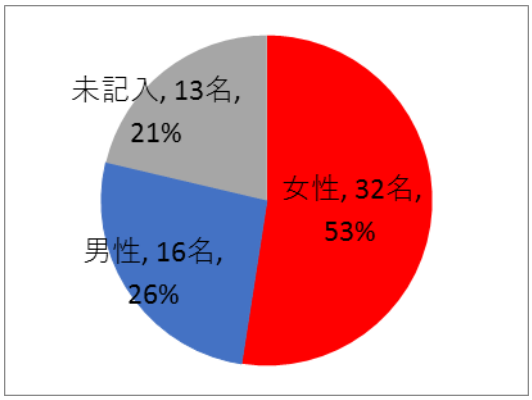
一般参加者７名のうち５名の方がお試し入会してくださいました。そのうちお二人は前回の和歌山城公園での「会員を増やすための探鳥会」（2017 年 12 月号掲載 http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201804.pdf ）にもご参加いただいた方でした。毎回の丁寧な対応がリピーターを増やしお試し入会につながる好例だと思います。また、昨年度まで「会員を増やすための探鳥会」の参加者としていらしていたご夫婦に、今回は和歌山県支部スタッフとして再会できたことがとても嬉しかったです。探鳥地の地元の方との良好な関係構築も、人とのつながりを大切にする和歌山県支部のとても大きな力だと感じました。

（普及室／浅野綾子）

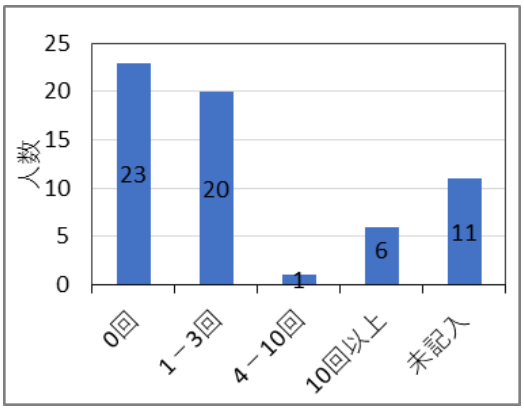
初めての方大歓迎　渡りの季節の探鳥会　in　境川遊水地（神奈川支部）

【日程】2018年3月31日（土）9時30分～12時30分
【場所】神奈川県立境川遊水地（横浜市泉区）
【天候】晴れ
【参加者】61名（うち一般参加者52名）
【リーダー】13名
【お試し入会】9名（一般参加者のうち約17%）
【広報】
　＜インターネット＞財団HP、財団Facebook／Twitter／ブログ
　＜メール＞一斉メール送信
　　（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪13,130名に送信）

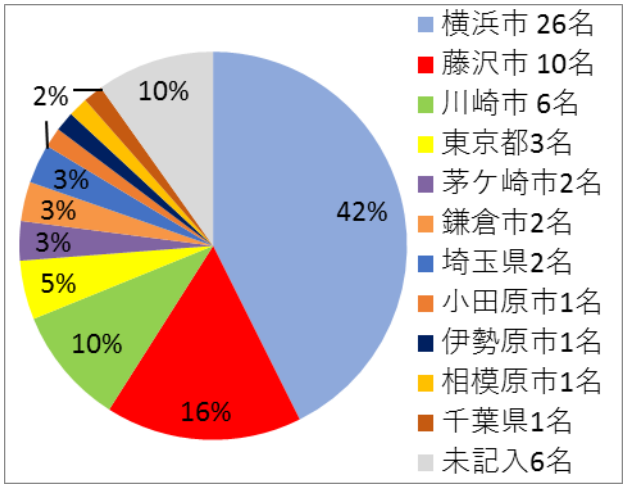
【性別】



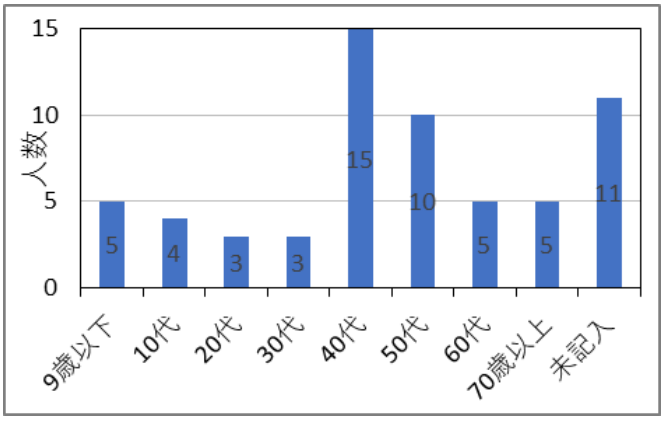
【バードウォッチングの経験回数】



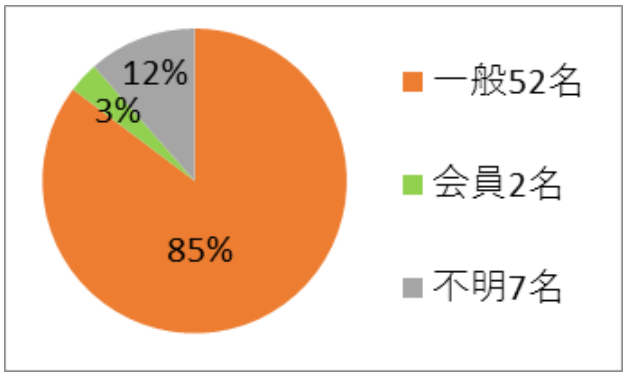
【お住まい】



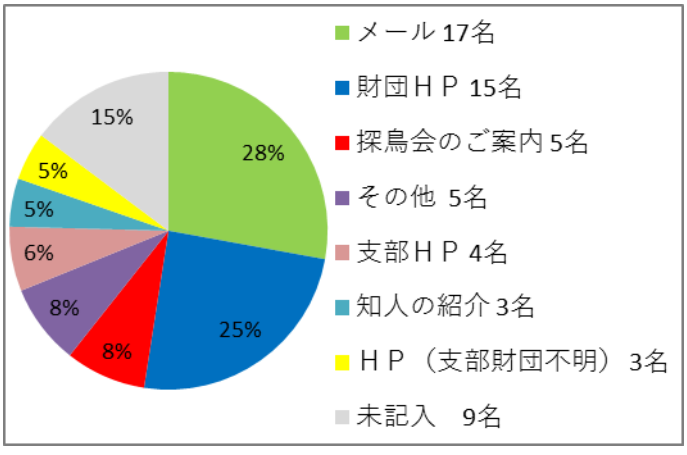
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■概要

今回の探鳥会は、神奈川支部の支援グループ「ふれあい自然探鳥会」との共催で行われました。コースは、小田急江ノ島線の湘南台駅を出発して境川に沿って歩き、遊水地の野鳥を観察する、約 2.3km の道のりです。

参加者を事前に募ったところ、当初予定していた定員 30 名を大きく上回る申し込みがありました。そのため、大幅に枠を広げ、70 名あまりが受け入れられました。当日キャンセルがあり、最終的な参加者は 61 名でした。

■探鳥会の様子

当日集まったリーダーは 13 名。開催日の数週間前から、参加者が多いことがわかっていたため、リーダーの人数を増やすために支部内で呼びかけられたそうです。

参加者の集合場所は、駅の改札前でしたが、そこは手狭なため、徒歩 5 分ほどの公園まで参加者を誘導し、受付や双眼鏡の貸し出しをする段取りが組まれていました。また、双眼鏡の貸し出し希望も事前把握されていたので、必要な台数や受付名簿が準備されていました。その結果、大きな混乱もなく、探鳥会が始まりました。

広場を出発し、境川沿いの道へ移動。遊水地が見渡せる場所に着くと、すぐにコチドリやハクセキレイなどが見られました。野鳥を見つけたり、双眼鏡を使ったりすることに慣れていないことから、なかなか見つけられない方もいましたが、リーダーがスコープで野鳥をとらえて見せたり、鳥がいる場所をわかりやすく伝えたりと、丁寧に対応していました。

その後も、境川と遊水地の間の道を歩きながら、バードウォッチングをしました。参加者 4・5 名にリーダー1 人の割合で案内していましたので、参加者は気兼ねなく質問ができ、自然と会話も弾んでいました。

自転車や歩行者が多い川沿いの道を通ったり、小さなお子さんが多かったりしたことから、安全管理に配慮が必要な場面もありましたが、リーダーの皆さんが常に気配りをされていました。

最後に、境川遊水地公園の情報センター前で鳥あわせとお試し入会の説明がありました。リーダーは、入会することが自然保護活動の応援にもつながることを、いろいろな例を挙げながら、わかりやすくお話され、

「神奈川支部は、野鳥に親しむ探鳥会はもちろん、自然を守る活動をしている。支援する意味を込めて、ぜひこの機会に入会を。」

と呼び掛けていました。

■参加者の声

複数名男女：2 月の新治市民の森でのビギナー探鳥会に参加し、また行きたいと思ったので申し込みました。

40 代女性：野鳥に詳しい方から教えてもらう機会はなかなかありません。自宅近くで探鳥会があれば、今後もぜひ参加したいです。

■まとめ

事前に参加者が把握でき、それに対して必要な準備ができるという、事前申し込み制のメリットが大きく生かされた探鳥会でした。

リーダーのみなさんには、コースの地図が事前に配布されていました。そこには、地図上に、時間配分や危険な個所、注意すべきポイントなどがまとめられ、交差点の指示などは、写真付きで解説されていました。リーダーが多くても、情報の共有をスムーズに行うための良い工夫だなと思いました。

▲受付を行った広場。大勢の参加者が集まっても余裕のある広さでした

▲リーダーの人数が多く、参加者ひとりひとりの質問に丁寧に対応されていました

（普及室／江面康子）

表2. 2017年度「会員を増やすための探鳥会」結果一覧

	開催日	支部名	開催場所	天気	全参加者数	非会員数（全参加者に占める割合）	初心者数（全参加者に占める割合）	お試し入会者数（非会員参加者に占める割合）	リーダー数（1人のリーダーに対する参加者数）
No.1	11/3（金・祝）	苫小牧支部	ウトナイ湖	晴れ	31	27(87%)	27(87%)	4(15%)	4(8)
No.2		東京	日比谷公園	晴れ	149	104(70%)	103(69%)	24(23%)	11(14)
No.3		福井県	中池見湿地	晴れ	31	24(77%)	14(45%)	0(0%)	4(8)
No.4	11/4（土）	滝川支部	滝川西公園	晴れ	20	11(55%)	12(60%)	0(0%)	6(3)
No.5	11/5（日）	宮城県支部	青葉山公園	晴れ	29	24(83%)	26(90%)	11(46%)	10(3)
No.6	11/12（日）	和歌山県支部	和歌山城公園	晴れ	18	18(100%)	13(72%)	0(0%)	5(4)
No.7	11/19（日）	大阪支部	長居自然史博物館	晴れのち曇り	179	135(75%)	106(59%)	2(1%)	23(8)
No.8		宮崎県支部	平和台公園	晴れ	31	21(68%)	－	5(24%)	7(4)
No.9	11/23（木・祝）	東京	井の頭公園	雨のち曇り	7	7(100%)	6(86%)	1(14%)	9(1)
No.10		滋賀	南郷洗堰	晴れ	25	19(76%)	16(64%)	3(16%)	4(6)
No.11		京都支部	鴨川	晴れ時々雨	34	33(97%)	32(94%)	8(24%)	10(3)
No.12		奈良支部	平城宮跡	晴れ時々曇り	20	20(100%)	17(85%)	2(10%)	6(3)
No.13	11/25（土）	山形県支部	霞城公園	雪のち雨	1	1(100%)	1(100%)	1(100%)	6(0)
No.14		栃木	栃木県中央公園	晴れ	41	37(90%)	33(80%)	2(5%)	5(8)
No.15		千葉県	千葉公園	晴れ	17	17(100%)	14(82%)	7(41%)	13(1)
No.16		滋賀	長等公園	晴れ	22	17(77%)	17(77%)	2(12%)	5(4)
No.17	12/2（土）	埼玉	大宮公園	晴れ	90	80(89%)	75(83%)	21(26%)	13(7)
No.18		千葉県	江戸川河川敷	晴れ	30	26(87%)	16(53%)	6(23%)	6(5)
No.19		奥多摩支部	昭和記念公園	晴れ	40	39(98%)	32(80%)	0(0%)	9(4)
No.20	12/3（日）	大阪支部	服部緑地	晴れ	40	36(90%)	35(88%)	0(0%)	13(3)
No.21	12/9（土）	栃木	鳥野目河川公園	曇り	25	16(64%)	13(52%)	0(0%)	10(3)
No.22	12/10（日）	茨城県	涸沼	晴れ	22	19(86%)	18(82%)	3(16%)	3(7)

No.23	12/16(土)	ひょうご	明石公園	曇り	91	82(90%)	62(68%)	28(34%)	11(8)
No.24		京都支部	岡崎疏水	曇り	22	21(95%)	14(64%)	4(19%)	8(3)
No.25	12/17(日)	茨城県	小木津自然公園	晴れ	11	8(73%)	9(82%)	1(13%)	3(4)
No.26		群馬	ぐんまこどもの国	晴れ時々曇り	34	29(85%)	26(76%)	6(21%)	9(4)
No.27	12/23(土・祝)	札幌支部	北海道大学構内	晴れ	96	53(55%)	40(42%)	0(0%)	10(10)
No.28		栃木	永野川緑地公園	晴れ	12	9(75%)	4(33%)	0(0%)	6(2)
No.29		諏訪	諏訪湖　横河川河口	晴れ	8	6(75%)	5(63%)	2(33%)	6(1)
No.30		滋賀	守山みさき自然公園	晴れ	35	31(89%)	26(74%)	7(23%)	6(6)
No.31		鹿児島	石橋記念公園	曇り	53	29(55%)	19(36%)	0(0%)	7(8)
No.32	12/24(日)	神奈川支部	山下公園	曇り	67	52(78%)	55(82%)	11(21%)	9(4)
No.33	1/6(土)	栃木	羽田沼	晴れ	23	14(61%)	10(43%)	0(0%)	9(3)
No.34	1/20(土)	栃木	井頭公園	晴れ	49	31(63%)	22(45%)	1(3%)	7(7)
No.35	1/21(日)	札幌支部	真駒内公園	曇り	64	31(48%)	16(25%)	0(0%)	13(5)
No.36	1/27(土)	神奈川支部	相模大堰	晴れ	5	4(80%)	−	3(75%)	9(1)
No.37	2/3(土)	栃木	小山運動公園	晴れ	12	8(67%)	8(67%)	1(13%)	7(2)
No.38	2/4(日)	奈良	平城宮跡	晴れ	12	10(83%)	7(58%)	3(30%)	2(6)
No.39	2/11(日・祝)	神奈川支部	新治市民の森	晴れ	134	113(83%)	80(60%)	21(19%)	13(10)
No.40	2/12(月・振)	京都支部	京都御苑	晴れ	90	87(97%)	80(89%)	6(7%)	10(9)
No.41	2/17(土)	栃木	なかがわ水遊園	晴れ	37	20(54%)	14(38%)	2(10%)	6(6)
No.42	2/25(日)	神奈川支部	新田宿	曇り	33	21(64%)	28(85%)	4(19%)	9(4)
No.43	3/4(日)	和歌山県支部	大池遊園	晴れ	12	7(58%)	7(58%)	5(71%)	8(2)
No.44	3/11(日)	栃木	足利渡良瀬川	曇り	39	26(67%)	17(44%)	1(4%)	7(6)
No.45	3/18(日)	熊本県支部	坪井川緑地公園	晴れ	33	10(30%)	−	−	−
No.46	3/31(土)	神奈川支部	境川遊水地	晴れ	61	47(77%)	43(70%)	9(19%)	13(5)

＊「初心者」は、これまでのバードウォッチング経験が「0回または1-3回」の方
＊次の会では、当日の正式入会がありました。No14：5人、No.21：2人、No.28：1人、No.33：2人、No.34：2人、No.37：4人、No.41：3人、No.44：2人

◆遠江からの情報「1,000 人目の探鳥会参加者に記念品プレゼント！」

日本野鳥の会遠江より、探鳥会での取り組みをお寄せいただきました。

「1,000 人目の探鳥会参加者に記念品プレゼント！」

日本野鳥の会遠江では、探鳥会の参加者に向けて、探鳥の他にも楽しみがあるよ、とアピールするため、年度ごとの参加者が 1,000 人に達したら 1,000 人目の人に記念品をプレゼントしよう、と話し合って決めていました。探鳥会参加者が 1,000 人に達した 2015 年度から、この取り組みを実施しています。

プレゼントした記念品は、2015 年度は旧版「フィールドガイド日本の野鳥」、2016 年度はピンバッジ、2017 年度はアウトドア用のボトル、前後賞の方にピンバッジを差し上げました。これらのプレゼントは、春の入会キャンペーンの残り物を使いましたので、支部の負担は少なくて済みました。受けとった参加者は、みな喜んでくださいました。

2017 年度は、昨年度に比べて１か月早く２月 17 日に 1,000 人に達しました。参加者が 1,000 人目に達した探鳥会の開催場所は、袋井市の小笠山総合運動公園です。ここには来年行われるラグビーワールドカップの試合会場があります。

当日は寒い日でしたが、梅も咲きはじめ、ジョウビタキ、アオジ、ホオジロが観察できました。

最近は会員ではない方の参加者も増えてきました。なかにはリピーターで参加してくれる方もみられるようになり、会員の暖かいサポートで入会に踏み切ってくれた方も何人かいました。

▲探鳥会の様子

（日本野鳥の会遠江／徳田英雄）

遠江からは以前、「春の入会キャンペーン」を実施して、会員数の低落傾向を止めることができたと報告をいただきました。（探鳥会スタッフ通信 2017 年３月号に掲載 http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201703.pdf ）

支部の探鳥会の情報や、工夫している点の情報は、いつでも募集しております。

情報をお寄せいただける場合は、財団普及室（tancho-staff@wbsj.org ）までご連絡をお願いいたします。

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 3 月分）

3 月は 69 支部からご報告をいただき、計 291 回の探鳥会が開催され、のべ 8,070 人が参加されました。

表 3. 3 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 4 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	1	23	9	1	33
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	7	1	1	9
道北支部	1	2	2	1	5
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	106	47	12	165
小樽支部	2	5	1	2	8
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	23	13	3	39
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	11	8	2	21
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	17	2	2	21
秋田県支部	2	34	2	2	38
山形県支部	4	30	11	5	46
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	20	4	5	29
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	42	36	5	83
ふくしま	2	43	0	3	46
郡山支部	2	45	0	6	51
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	4	3	13	20
会津支部	1	4	0	1	5
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	16	5	1	22
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	116	67	19	202
栃木	17	331	91	48	470
群馬	9	126	95	29	250
吾妻	1	22	1	2	25
埼玉	14	361	75	83	519
千葉県	10	154	58	39	251
東京	13	535	25	67	627
奥多摩支部	11	242	41	44	327
神奈川支部	15	286	88	51	425
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	44	19	5	68
石川	2	42	14	5	61
福井県	1	1	14	3	18
長野支部	2	29	4	4	37
軽井沢支部	1	10	10	1	21
諏訪支部	1	15	21	2	38
木曽支部	–	–	–	–	–
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	43	5	4	52
富士山麓支部	1	4	4	1	9
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	17	13	1	31
南富士支部	1	46	18	2	66
南伊豆	1	11	0	2	13
静岡支部	3	42	9	7	58
遠江	5	111	27	15	153
愛知県支部	14	222	196	40	458
岐阜	–	–	–	–	–
三重	5	38	15	9	62
奈良支部	4	94	20	8	122
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	38	40	8	86
京都支部	11	253	113	28	394
大阪支部	21	509	122	82	713
ひょうご	6	97	85	21	203
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	42	8	3	53
島根県支部	3	20	56	3	79
岡山県支部	5	98	56	16	170
広島県支部	5	77	40	5	122
山口県支部	5	40	17	5	62
香川県支部	2	93	23	3	119
徳島県支部	6	104	42	6	152
高知支部	1	18	13	1	32
愛媛	4	56	19	7	82
北九州支部	3	52	7	3	62
福岡支部	7	136	35	15	186
筑豊支部	2	35	6	2	43
筑後支部	4	38	14	8	60
佐賀県支部	3	79	24	4	107
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	5	78	37	6	121
大分県支部	2	24	25	3	52
宮崎県支部	3	27	10	3	40
鹿児島	4	51	55	13	119
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	3	6	0	3	9
全国	291	5345	1921	804	8070

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2018 年度からの「初心者向けバードウォッチング」について■

2014 年度から、関東ブロック所属の 8 支部に呼びかけて始めた「会員を増やすための探鳥会」は、2015 年度は 12 支部、2016 年度は 18 支部、そして昨年 2017 年度は、24 支部と開催しました。

2018 年度からは、名称を「初心者向けバードウォッチング」に変更し、参加要件も見直し、全国のより多くの支部の皆さんにご参加いただけるようにと考えております。

主な変更点は、以下の通りです。

・お試し入会サービスについて

2018 年度からは、お試し入会サービスの設定を任意とし、支部の判断にお任せします。

・カード式名簿の導入について

2018 年度からは、会員ではない参加者には、個人情報が記入できるカード式の受付名簿を使用します。カード式の名簿を導入することで、財団から参加者へパンフレットの郵送や一斉メール送信を行います。

・開催期間の拡大について

春にも開催したい、通年開催したいという声をいただいていましたので、開催時期を、秋期（10 月～12 月）、冬期（1 月～3 月）、春期

（4 月～6 月　※春期は 2019 年より開始）に拡大いたします。

詳細は、５月下旬に、各支部の事務局宛にお送りする開催の手引きをご覧ください。

開催期間を広げたことにより、実施概要の提出依頼や広報は、秋期、冬期、春期の時期ごとに行います。参加するかどうかは、その都度、時期ごとにお決めいただけます。

2018 年度「秋期」開催分については、７月に財団から実施概要の提出依頼をし、ご参加いただける場合は、８月 15 日までに、実施概要を提出いただくスケジュールとなります。

今年度も多くの支部からのご参加をお待ちしています。

■2017 年度「探鳥会リーダーズフォーラム」報告書（概要版）■

1/20-21 に探鳥会リーダーズフォーラムを開催しました。今回は、34 名 15 支部からの参加があり、そのうち 18 名が初参加者でした。初の中部ブロックでの開催ということで、地元愛知県支部からも分科会を出していただき、おまけに終了後は藤前干潟をご案内いただきました。フォーラムで仲良くなった各支部のリーダーが一緒に藤前干潟を探鳥することができ、よい締めくくりとなりました。愛知県支部の皆さんに御礼申し上げます。

ここでは「概要版」として報告させていただき、詳しい議論の内容を収録した「詳細版」の報告書は別途ご希望の方にお送りします。「リーダーズフォーラム報告書希望」と明記の上、tancho-staff@wbsj.org まで、①支部名、②お名前、③メールアドレス を添えてご連絡ください。（参加者の方は連絡不要です。別途お送りいたします。）

■日　　時■ 2018 年 1 月 20 日(土)13:30
～21 日（日）12:00
■主　　催■ （公財）日本野鳥の会　普及室
■旅行実施■ （株）南海国際旅行
■会　　場■ 邦和セミナープラザ（名古屋市）
■参 加 者■ 34 名
■スタッフ■ ８名
■参加支部■ 宮城県支部、栃木、東京、神奈川支部、東富士、愛知県支部、福井県、滋賀、京都支部、奈良支部、大阪支部、ひょうご、岡

山県支部、鳥取県支部、佐賀県支部（15 支部）
■参 加 費■10,000 円
■スケジュール■
20 日 13:30 オリエンテーション
13:45 アイスブレイキング
14:15 ワールドカフェ
「探鳥会を考えよう」
16:00 分科会 A（120 分）
18:30 夕食
19:30 懇親会
21 日 7:30 朝食
8:45 分科会 B（90 分）
10:30 クロージング
12:00 終了

■分科会■
（1）「参加者から支援を引き出す！ツバメのねぐら入り観察会の工夫」
＜企画者＞堀本／普及室
＜参加者＞10 名（7 支部）
＜内 容＞
野鳥が少なくなる夏場に、ツバメのねぐら入り観察会を開催する支部が増えています。この分科会では、非会員の参加者が多いねぐら入り観察会で、入会やグッズ販売など支援を得る工夫ができないか議論しました。
まず、分科会の趣旨説明の後、各支部の取り組みについて報告していただきました。その後のフリーディスカッションでは、ツバメのねぐら入り観察会の運営の難しさについていくつか指摘がありました。
ねぐら入り観察会の知名度が上がり、100 人～200 人の参加者が集まり、対応に苦慮するケースや、ねぐらの場所が変動し観察できなかったケース、現地までのアクセスの悪さと暗闇の中での開催となるため、会のＰＲや入会の案内がしづらい、などといった意見が相つぎました。

▲グッズ販売のデモンストレーション

財団からは、バードメイトによる寄付集め試行の紹介やおつりがいらないワンコインのグッズ販売についての提案を行いました。
これに対して、参加者からはグッズ販売は単価が安いため、集金方法としては効率がよくない。参加費の徴収や、入会の勧誘に絞った呼びかけをした方がよいといった意見もありました。
今回はこれといった結論は出ませんでしたが、いろいろ出たアイディアのうちできるところから順次試し、次回は実践例をもとにした議論をしていくように申し合わせました。

（2）「ヤング探鳥会は支部に何をもたらすのか？人材発掘？先行投資？会継続？」
＜企画者＞石亀／東京
＜参加者＞11 名（7 支部）
＜内 容＞
リーダーズフォーラムで毎回分科会を開催し、少しずつ実施支部を増やしてきたヤング探鳥会。今回はヤング探鳥会を実施することで支部が得られること、長く継続させるために必要なことについて、実践例をもとに議論しました。
まずは各支部からの取り組み状況の報告をしていただきました。愛知県支部では 2017 年 8 月に第 1 回目のヤング探鳥会が開催され 30 名が参加されました。しかしその後 2 回目を開催したところ 3 名しか集まらず、集客が安定しないという報告をしていただき、他の参加者から集客についてのアドバイスをいただきました。
また、ヤング探鳥会を支部全体で盛り上げていこうという支部がある一方で、支部の中で存在が浮いてしまうところもあり、ヤング探鳥会の担当者と支部幹事とのギャップをどのように埋めていけばよいのかといった議論もありました。
その中で、支部の幹事の中では、ヤング探鳥会からリーダーや幹事が育っていないという認識を持っている人がいるが、実際にはそうではないなど、双方に認識のずれがあることがわかりました。そこで、まずは支部の中でヤング探鳥会の成果を報告することや、ヤング探鳥会からリーダーや幹事を推薦して幹事会とのコミュニケーションを図っていくことが重要なのではないかといった意見がありました。
これらの視点は、支部の中で一つの事業を長く継続させていく上で大変重要なものであること、支部やブロックを越えて議論できる場が重要であることが再確認されました。

（3）「野鳥の会育ちの子どもたちが社会を変える」

＜企画者＞ 笠原／神奈川支部、菅・勝又／東富士）
＜参加者＞ 18 名（9 支部）
＜内　容＞

次世代に活動や組織を引き継いでいくために、子どもを対象とした事業の必要性が叫ばれています。しかし実際には当会では子どもを対象とした継続的な事業はなかなか育っていないのが実情です。

今回はその中でも、H15 年以来 15 年間事業を継続してきた東富士による「キッズ隊」について事例の報告をしていただきました。

キッズ隊が長く継続してきた理由としては、支部の担当者が教員であったこと、富士山をフィールドにしたことで小学校の郷土学習とリンクさせることができたとのことでした。また印象的だったのは、野鳥の巣箱の観察で古巣の中に人工物が多いことから、ごみ拾いの活動に発展したり、観察結果をまとめて発表したりという具合に、観察の次のステップを用意されてきたということでした。

２つ目の事例として紹介していただいたのは、ひょうごの親子探鳥会の事例でした。H23 年３月からはじまり、年間 6 回のペースで 6 年間継続されてきました。

キッズ隊との共通点は、望遠鏡で鳥を見るバードウォッチングの形にこだわらず、巣箱を設置したり、地面を掘り起こして出てきた虫を野鳥が食べる様子を観察したり、昆虫や植物などを観察したりと、様々な活動を取り混ぜていることでした。

その後のフリーディスカッションでは、事業を継続させることの難しさについて、主に人づくりの視点から議論しました。一つは、参加する子どもたちの継続性、もう一つは実施する側のスタッフの継続性です。

子どもたちには、12 歳の壁と 18 歳の壁があるといわれています。小学校を卒業するタイミングと高校を卒業するタイミングで大きく周りの環境が変わってしまうため、そこで継続性が切れてしまうことが多いといわれています。

スタッフ側の継続性の問題とは、支部のスタッフの後継者が育っていないために高齢化して、事業そのものの継続性が失われてしまうことです。

これらのことをあらかじめ想定しながら、個人の努力だけではなく支部として事業の継続性を念頭に置いた事業運営が必要だという議論を行いました。

▲東富士支部の菅支部長と勝又さん

（4）「お試し会員を増やそう！探鳥会の進め方」

＜企画者＞　樋口／神奈川支部
＜参加者＞　17 名（10 支部）
＜内　容＞

営業の現場で広く使われている理論に「マインドフロー」があります。マインドフローとは、顧客がある商品のファンになる気持ちの流れを「認知」「興味」「行動」「比較」「購買」「利用」「愛情」の 7 つの心理ステップとして捉えるものです。神奈川支部の樋口さんは、参加者をお試し入会に勧誘する際にこの考え方が役立つのではないかと考え、探鳥会の現場で実践されてきました。

まず樋口さんから、参加者が「お試し入会する」（＝購買）ことをゴールと捉えた場合のマインドフローの考え方を紹介いただきました。

＜顧客視点でのマインドフローと突破方法＞

1.「認知」
探鳥会の冒頭で、簡単にお試し入会制度があることを知らせておきます。

2.「興味」
日本野鳥の会や探鳥会について説明し、興味を持っていただきます。

3.「行動」
探鳥会に参加している時点で、この関門は突破済みといえます。

4.「比較」
　お試し入会をするか、しないかを比較検討する重要な段階です。お試し入会を選んでもらうためには「入会せずに鳥を見ること」よりも高い価値を提供する必要があります。
＊ここで、参加者間で「入会の価値」についてディスカッションし、「現物を見ながら説明をしてもらえる」「１人で見るよりも多くの鳥が見つかる」「仲間が見つかる」「１人では行けない探鳥地に行ける」「調査、保護活動にも参加できる」といった意見があがりました。
5.「購買」：お試し入会する
　参加者の気持ちが高まって、最終の勧誘を行う段階。探鳥会の最後に少人数のグループで鳥合わせと入会の勧誘をすると効果が大きく、入会手続き手間、面倒（時間）、不安を解消することも重要です。
　質疑応答では、「ハードルを下げるために、入会という言葉を使わず、お試しメンバー制度として紹介している」といった他の支部の事例が報告されました。

（５）「さて困った、野鳥の会の底力～サギ調査の課題を解決する～」

＜企画者＞新實・野澤／愛知県支部
＜参加者＞９名（６支部）
＜内　容＞
　地元の愛知県支部により企画された分科会です。サギは周辺の生息地が狭められていく過程でコロニーのサイズが大きくなり、それが都市部と隣接していると人間の生活圏と抵触し大きな社会問題となっています。
　愛知県支部では、2010 年から NEXCO 中日本、弥冨野鳥園と覚書を交わし、高速道路の緑地帯にできたサギのコロニーの保全に取り組んできました。分科会ではその取り組みの過程で愛知県支部が直面した問題をどのように切り抜けてきたかについて、参加者に追体験していただきながら議論によって解決のアイディアを探すという手法で進められました。
　直面した問題とは、サギのコロニーの実態を把握するために、カウント調査を行っていた時に、想定よりも数が多すぎて調査員の数が足りなくなったことでした。
　もう１つは、サギの識別が難しく、調査員によって判断が分かれることがしばしばあり、データの精度が安定しないということでした。

▲動画でサギのコロニーの様子を確認する

　参加者は、これらの問題に対する解決のアイディアを出し合い、ホワイトボードに書き出していきました。
　その後実際に愛知県支部でとった解決策を紹介していただき、どのように問題をクリアしていったのかについて解説していただきました。
　最後にフリーディスカッションの中で、探鳥会の次の受け皿として調査活動にもっと着目してもよいのではないかという意見が相次ぎました。
　現在、各支部で、スタッフの高齢化により調査員が少なくなり、会の調査能力の低下ということが懸念されています。そうした中で、探鳥会の次の受け皿として、調査活動を工夫することで、もっと参加性を上げられるのではないかといった意見や、調査による保全活動を強化することで自然保護団体としての基礎体力を向上させられないかといった意見がありました。

（６）「葛西臨海公園　オリンピック問題からラムサール登録へ
～登録後の利活用を考えよう～」

＜企画者＞落合／東京
＜参加者＞12 名（８支部）
＜内　容＞
　「ある日突然、探鳥会のフィールドが開発計画によって危機に立たされる！」こうした状況はどこでも起こりうることです。
　日本野鳥の会東京は、長年活動してきた葛西

臨海公園がオリンピック競技場の候補地になり、反対運動を続けたことで、何とかこれを退けてきました。

分科会の冒頭では、まず葛西臨海公園をラムサール条約に登録しようと構想した経緯について、オリンピック問題に対応した当時のことにさかのぼってお話しいただきました。次に、ラムサール登録後、どのように利活用を進めていけばよいのかについて 2 つのグループに分かれてディスカッションを行いました。

その中で、登録するまでは支部としての関わりを持ちやすいが、登録後は主軸が行政に移行し、ネイチャーセンターができればそこを運営するレンジャーが主な担当となるケースが多いという指摘がありました。

行政の意向としてはラムサールに登録して観光開発に生かしていきたいというものがあものの、現在では登録湿地が増えて、ラムサール湿地というだけではそれほど観光客を呼べる力はないこと、行政の予算が付くのも登録後 2 年程度までという傾向があり、行政の認識が甘いと事業が長続きしないといったことが報告されました。

その中で支部としてできることは、ラムサール条約に関する連絡会などを立ち上げて、ラムサールを専門に活動している団体との連携をとっていくことが重要だという意見がありました。

また、KODOMO ラムサールなど、これまで支部ではあまり取り組んでこなかった分野に踏み出してみることは、結果的に支部に新しい風を吹き込むことにもなるのではないかといった意見もありました。

以上

■今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は宮城県で開催！■

今年度は初の東北での開催です。

詳細な募集要項は、８月頃にご案内できる予定です。

【日時】2019 年 2 月 16 日（土）13:00～
17 日（日）12:00（予定）
【会場】エポカ 21（宮城県栗原市）
【定員】40 名
【参加費】未定
（10,000 円～13,000 円を予定）

■「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？■

「探鳥会リーダーズフォーラム」で分科会を企画、実施してくださる方を募集します。探鳥会にまつわることで全国のリーダーと共有したいこと、話し合ってみたいことがある方はご連絡下さい。
※分科会の開催については、内容や募集数を勘案し事務局で調整させていただきますのでご了承ください。

◎募集要項

分科会の所要時間は ①2 時間（1 日目）②1 時間 30 分（2 日目）があり、事例の紹介や進行を行っていただきます。分科会の企画運営、進行などは必要に応じて事務局でサポートさせていただきます。お気軽にご相談下さい。

＜締め切り＞　2018 年 7 月末
＜お申込み＞企画する分科会について、以下の項目を添えて、
tancho-staff@wbsj.org までお送り下さい。
・分科会タイトル
・分科会内容（200 字程度で）
・希望する所要時間
・ご担当者（支部名、お名前、電話番号、連絡の必ず取れるメールアドレス）

◆お問い合わせ／お申込み
日本野鳥の会　普及室　普及教育グループ
【担当：箱田、関】
Mail：tancho-staff@wbsj.org
TEL：03-5436-2622

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信５月号の電子メール版の購読者数は、先月より１名増えて 839 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表 4. 探鳥会スタッフ通信５月号電子メール版の購読者数（2018 年５月 11 日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	5
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	4
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	38
千葉県	21
東京	67
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29
福井県	10

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	44
岐阜	5
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	20
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	16
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	13
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	16
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	839

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

バードウィーク真っただ中にこのコーナーを書いています。たくさんの鳥たちが見られる季節、探鳥会はいかがでしたでしょうか？

今月号で、2017 年度の「会員を増やすための探鳥会」の報告は最後です。そして！今年度から、これまでの「会員を増やすための探鳥会」の名称は「初心者向けバードウォッチング」に変わります。名前だけでなく、開催期間も 10 月～6 月と長くなりますよ。今まで開催されていた支部のみなさまはもちろん、「秋冬は寒いし、鳥インフルエンザが心配…」と開催をためらわれていた方も、ぜひご検討いただけますと幸いです。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 62 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018 年 5 月 16 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org